

平成27年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立北陵中学校

教育目標(めざす児童生徒像)

豊かな人間性を培い、主体的、創造的に自己実現をめざす、心身ともにたくましい生徒を育てる。

今年度の指導の重点

- (1) 確かな学力の定着と向上を図る。(基礎基本の定着と活用型の授業改善)
- (2) 豊かな心と社会に通じるマナーを育てる。
 - ・一人一人が存在と達成感のもてる集団づくり
 - ・生徒指導・教育相談・特別支援教育の連携体制を強化し、個に応じた支援と豊かな心の育成に努める。
- (3) 将来に夢を持ち、自ら考え行動し、進路を切り拓く力を育てる。
- (4) 小学校や地域との連携をより進めていく。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

全国

国語A、国語B、数学A、数学Bについては、県平均と比べると正答率が高い。
理科については、県平均と比べると正答率が低い。
国語Aの「話すこと・聞くこと」領域は県平均と比べると正答率が高いが、「書くこと」領域は県平均と比べると正答率は低い。
数学Aの「資料と活用」領域は県平均と比べると正答率はかなり高い。
理科の「物理」領域は県平均と比べると正答率は低い。

県

国語については、県平均と比べると正答率は同程度。
数学については、県平均と比べると正答率が高い。
社会と理科については、県平均と比べると正答率が低い。
国語の「言語についての知識・理解・技能」領域は県平均と比べると正答率が高いが、「書くこと」「読むこと」領域は県平均と比べると正答率は低い。
数学の「数と計算」領域は県平均と比べると正答率が高いが、「数量関係」領域は県平均と比べると正答率は低い。
社会の「我が国の政治の働き」領域は県平均と比べると正答率は低い。
理科の「物質・エネルギー」領域は県平均と比べると正答率は低い。

【学習状況調査の結果】

授業の始めに目標が示されていたと思っている生徒の割合は県平均よりかなり高い。
家で計画を立てて、予習や復習を行っている割合は県平均よりかなり高い。
友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だと思っている生徒は県平均よりかなり高い。

理科が好きだと思っている生徒の割合が県平均より低い。
国語や数学が好きな生徒の割合は県平均より高く、授業内容がよく分かると感じている生徒の割合も県平均よりかなり高いと感じている一方、国語や数学の勉強が大切だと感じたり、将来役に立つと思ったりしている生徒の割合は県平均より低い。
授業の中で話し合う活動を行っていたと思っている生徒の割合は低い。

テレビ等の視聴時間は、県平均と同程度。
家庭での学習時間(1時間以上)の割合は、平日、休日ともに県平均より高い。
読書が好きな生徒が多く、昼休みや放課後に学校図書室を利用(週に1~3回以上)する割合は県平均よりかなり高く、読書をする(1日30分以上)の割合も高い。
近所の人に挨拶をしているかは、県平均と同程度。

成果と課題

成果

近年継続して、どの教室にも「本時の目標」の授業プレートを設置し、どの授業でも目標を示して、授業を行うように全教職員で共通理解をし、実行をしている。その結果、ほぼ全員の生徒が、授業の始めに目標が示されたと思っている。
昨年度より小中で連携をして家庭学習時間のめやすを示したり、家庭学習のあり方について校内で研究したりした結果、計画的に家庭学習を行っている生徒は多い。

課題

勉強の必要性や有用性を感じている生徒が少ない。
自分の意見や考えを友達の前で発表するのは得意だと思っている生徒は多いが、授業の中で話し合う活動等の場面が少ないため、授業の中で話し合う活動を行っていたと思っている生徒の割合は低い。

課題に対応した改善方法

どの教室にも、「考えてみよう」「話し合おう」の授業プレートを設置し、授業の中で積極的に活用していく。
答えだけを求めるのではなく、なぜそうなるのか、どう役に立つのか等を大切に授業展開を行う。
どの教科でも小テストを定期的に行い、生徒の定着度を確認しながら、不十分なら再度指導をする。
机間指導を充実させ、個に応じた指導時間を確保する。
国語
1年 「漢字を書き力」モジュール(朝学習)の時間に、漢字プリントで、小学校段階の既習漢字の復習、確認。
2年 一滴一滴など新聞記事を活用し、書く課題を授業に取り入れる。
3年 一滴一滴など新聞記事に対する自分の意見をまとめる。常用漢字の復習。
数学
設問ごとの正答率を見ると、「方程式」が弱いので、全学年で自己診断テスト前や学年の終わりに重点的に復習問題を取り入れる。
個人ごとの弱い部分を分析し、個別にプリントを与え、取り組ませる。
理科
レポート作成で表現力をつける。
電気の分野の計算問題を重点的に復習する。

取組の検証方法及び検証時期

各教科ごとに右上に示した改善方法を実施する。(年間通して)
中2に学力定着状況たしかめテストの実施(11月)
小中連携の学力向上担当を中心に、各学年の課題を明確にし、改善を行う。(2学期、3学期)
学習状況調査と同様のアンケートを行う。(学期に終わり)
上記の結果を受けて、改善方法の見直しを図る。

平成28年度津山市達成目標に対する具体的な目標(数値目標等)

全教科において、全国平均の正答率を上回る。
授業の中で話し合う活動を行っていたと思っている生徒の割合で県平均を上回る。
国語、数学、理科の勉強が大切だと思う生徒の割合で県平均を上回る。